

# MDRPU ケアガイド



デュオアクティブ®シリーズは創・皮膚保護にも活躍します!



デュオアクティブ®*CGF*



デュオアクティブ®*ET*



ビジダ-ム®



監修・写真提供／JAとりで総合医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師  
竹之内 美樹



## → 医療関連機器圧迫創傷 (Medical Device Related Pressure Ulcer:MDRPU) とは?

医療関連機器による圧迫で生じる皮膚ないし下床の組織損傷であり、厳密には従来の褥瘡すなわち自重関連褥瘡 (self-load related pressure ulcer) と区別されるが、ともに圧迫創傷であり広い意味では褥瘡の範疇に属する。なお、尿道、消化管、気道等の粘膜に発生する創傷は含めない。

(参考文献1: P6より)

### 施設別医療機器関連圧迫創傷の発生に関連した機器(上位10位)

|    | 全施設         | 一般病院        | 療養型病床を有する一般病院 | 大学病院        | 小児専門病院       | 訪問看護ステーション        |
|----|-------------|-------------|---------------|-------------|--------------|-------------------|
| 1  | 医療用弾性ストッキング | 医療用弾性ストッキング | 医療用弾性ストッキング   | 医療用弾性ストッキング | 血管留置カテーテル    | NPPVフェイスマスク       |
| 2  | NPPVフェイスマスク | NPPVフェイスマスク | 下肢装具          | 経鼻経管法用チューブ  | 気管切開カニューレ固定具 | 下肢装具              |
| 3  | ギプス・シーネ     | ギプス・シーネ     | 尿道留置カテーテル     | 機器名不明       | ギプス・シーネ      | 尿道留置カテーテル         |
| 4  | 血管留置カテーテル   | 体幹装具        | 介達牽引          | 間歇的空気圧迫装置   | 体幹装具         | 経鼻酸素カニューレ         |
| 5  | 機器名不明       | 尿道留置カテーテル   | 体幹装具          | 血管留置カテーテル   | 気管内チューブ      | 経ろう管法用チューブ        |
| 6  | 体幹装具        | 機器名不明       | 気管切開カニューレ     | ギプス・シーネ     | NPPVフェイスマスク  | 車椅子のアームレスト・フットレスト |
| 7  | 尿道留置カテーテル   | 血管留置カテーテル   | 経鼻酸素カニューレ     | 抑制帯         | パルスオキシメーター   | 気管内チューブ           |
| 8  | 経鼻経管法用チューブ  | 気管内チューブ     | ギプス・シーネ       | NPPVフェイスマスク | 経鼻経管法用チューブ   | 機器名不明             |
| 9  | 間歇的空気圧迫装置   | 経鼻経管法用チューブ  | 機器名不明         | 手術用体位固定用具   | —            | 気管切開カニューレ         |
| 10 | 気管内チューブ     | 手術用体位固定用具   | 手術用体位固定用具     | 経ろう管法用チューブ  | —            | ギプス・シーネ           |
| 11 | 経鼻酸素カニューレ   | —           | 血管留置カテーテル     | シーネ         | —            | 医療用弾性ストッキング       |

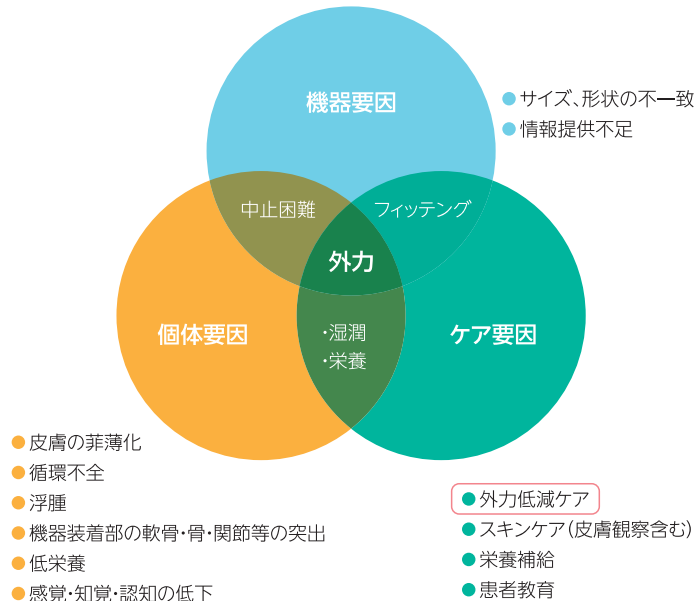
(参考文献2:P498、図2より一部改変)

### MDRPU有病率・推定発生率と褥瘡における割合

| 施設区分          | 有病率(%) | 推定発生率(%) | 褥瘡有病者のうちMDRPU有病の割合(%) |
|---------------|--------|----------|-----------------------|
| 一般病院          | 0.35   | 0.34     | 14.0                  |
| 療養型病床を有する一般病院 | 0.18   | 0.16     | 6.4                   |
| 大学病院          | 0.29   | 0.27     | 18.3                  |
| 精神病院          | 0.16   | 0.11     | 20.0                  |
| 小児専門病院        | 0.84   | 0.81     | 56.4                  |
| 介護老人福祉施設      | 0.05   | 0.05     | 6.3                   |
| 介護老人保健施設      | 0.09   | 0.06     | 7.8                   |
| 訪問看護ステーション    | 0.16   | 0.08     | 8.1                   |

(参考文献2:P488、表2,3,4より一部改変)

### 医療関連機器圧迫創傷の発生要因



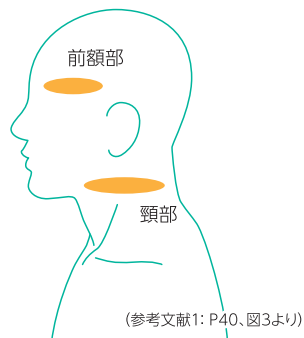
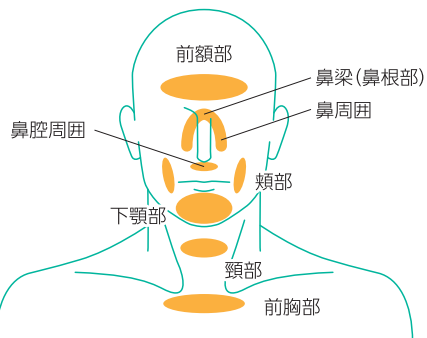
(参考文献1: P16、図1より)

# 非侵襲的陽圧換気療法マスク



マスクと皮膚の接触部位、ストラップが皮膚に当たる部位の摩擦、ずれを減らすためにドレッシング材を貼付します。

MDRPUが発生しやすい部位



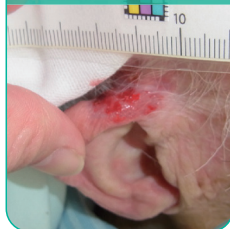
貼り方例



NPPVマスク



酸素マスクによる  
耳介損傷



## ポイント

- 外圧低減には、厚み・クッション性があるものが向いているが、マスクが密着するように注意する。耳介には、デュオアクティブETやビジダームなど薄いドレッシングが密着させやすい
- デュオアクティブシリーズは緩衝作用により唾液や消化液から皮膚の保護効果が期待できる

# ギプスやシーネなどの固定具



皮膚と装具の接触防止に緩衝剤として貼付します。

MDRPUが

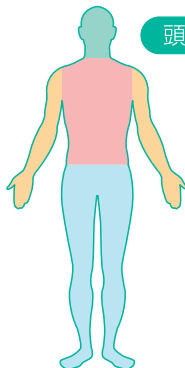
発生しやすい部位

上肢

手背・母指基部・尺骨遠位部・上腕骨顆部・肘頭など

体幹

肋骨部・腸骨部（前・後腸棘部・腸骨稜部）・脊椎部・臀部



頭頸部

下肢

踵骨部・足関節内果・外果・足部外側縁・足背部・脛骨・腓骨骨頭部・アキレス腱部・母趾MP関節・小趾MP関節など

特長

- 皮下組織が薄く、骨や関節が突出しやすい部位
- 固定中に発汗などによる皮膚の湿潤がある部位
- 装具端が接触する部位
- 外傷などによる急速な患部の膨張にともなう皮膚の菲薄化が起こる部位
- 長期固定による筋萎縮・関節拘縮による幹部の形状変化が起こる部位
- 循環不全：糖尿病性潰瘍やシャルコー関節症の保有、PAD（抹消動脈疾患）やアテローム硬化症、バージャー病等の抹消血管障害

（参考文献1：P51より一部改変）

弾性ストッキングによる損傷



ギプス



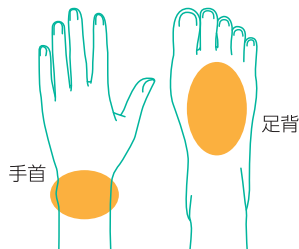
ケア時の注意点

- 皮膚と装具との接触を避ける
- ギプスが当たる場合は医師に報告しカットする
- シーネ作成時は完全に硬化するまで患肢を動かさず安静に保つ
- 骨突出部は直接当たらないよう隙間を作る
- 下肢の場合、ABI0.9以下で専門家へ相談する

# 血管留置カテーテル

カテーテルハブとロックナットの接続部の圧迫が直接皮膚に加わらないようにドレッシング材を貼付します。

MDRPUが発生しやすい部位

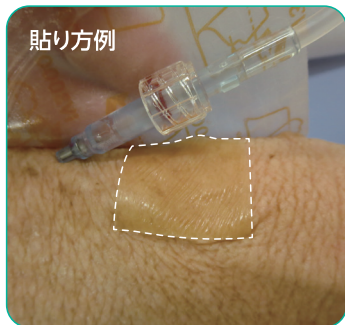


## 特長

- 関節の動きによって摩擦・ずれが生じる部位
- 皮下組織が特に少ない部位

(参考文献1: P76より)

貼り方例



# 経鼻胃チューブ

同じ部位が圧迫されないように、鼻や頬のチューブが接触する部位にドレッシング材を貼付します。

MDRPUが発生しやすい部位

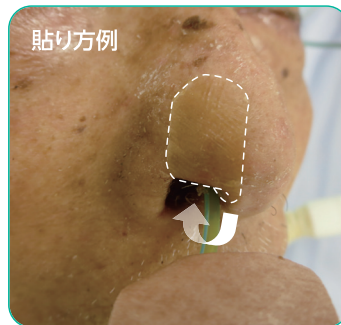


## 特長

- チューブを固定する面積が狭い部位
- 鼻汁、呼吸に伴い皮膚が湿潤する部位
- 頰や表情筋の動きによりチューブが動き、緊張がかかる部位

(参考文献1: P82より)

貼り方例



## ドレッシング貼付のコツ

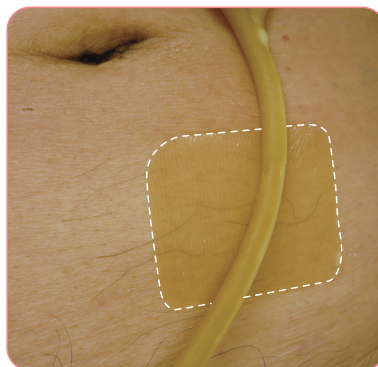
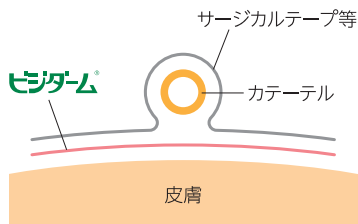
- ドレッシング材を鼻腔内に少し入れ込む。はがれて中に入りこまないように外側にも1cm以上余裕をもたせた大きさに貼付する
- 鼻は皮脂分泌が多いため、テープ貼付時、交換時は洗浄剤を用いて拭く

## カテーテルを固定するコツ(尿道留置用カテーテル、血管留置カテーテル等)



チューブが皮膚に接触しないように、  
あらかじめビジダームを皮膚に貼付してからチューブをサージカルテープ等で固定します。

テープでの固定時はカテーテルを  
皮膚から浮かせるように遊びを  
作ってから固定します(Ω固定)。



### 皮膚が弱い方には

皮膚に優しいハイドロコロイド素材ですが、小児患者、皮膚が弱くて心配な患者様には  
シレッセ皮膚被膜剤 ワイプタイプの併用がお勧めです。保護したい部位を拭いてから  
ドレッシング材を貼付します。



- 参考文献 1.一般社団法人日本褥瘡学会.ベストプラクティス 医療関連機器圧迫創傷の予防と管理.東京,照林社,2016,P113  
2.日本褥瘡学会 実態調査委員会: 第4回(平成28年度)日本褥瘡学会実態調査委員会報告3 療養所別医療関連機器圧迫創傷の有病率,有病者の特徴,部位・重症度,発生関連機器.褥瘡会誌,2018,20(4),p.486-502.

## デュオアクティブをMDRPUに使用するメリット

- デュオアクティブをMDRPUに使用することにより、くいこみ防止や圧迫予防などの外力低減につながる。
- 過剰な滲出液を吸収し、緩衝作用により唾液・消化液・排泄物からの皮膚保護や創傷治療効果に優れている。
- デュオアクティブは、切って整形しやすく、また自着粘着力があり、MDRPUのケアに活用できるドレッシング材である。
- シリーズをうまく使い分けることで発生リスク低減から治療まで幅広く使用できる。

### 発生した潰瘍の外圧低減・治療促進



**デュオアクティブ<sup>®</sup>CGF**

医療機器承認番号 20600BZY00837000



**デュオアクティブ<sup>®</sup>ET**

医療機器承認番号 20700BZY00181000

### 健常皮膚の保護



**ビジダーム<sup>®</sup>**

\*ビジダームは医療機器ではありません

®はConvaTec Inc.の登録商標です。© 2019 ConvaTec Inc.



製造販売元  
**コンバテック ジャパン株式会社**

お客様相談窓口  
**0120-532384**  
<http://www.convatec.com>